

申し込み不要
観覧無料

企画展ギャラリートーク

今から百年前の大正元年九月四日、

「誇る文豪」田山花袋が太田の町を歩く

— 小説『百日紅』を読む

群馬県立太田高等学校教諭 関塚 誠氏

同時開催

群馬県立太田高等学校文芸部が選んだ

「俺の花袋、ぐつときたフレーズ」発表会

開け放した寺は此方からすつかり見えた。おしろい草の赤いのと、向日葵の黄
いのと、松の青いのを隔て、、白い服を着た男と、羽織袴の若い書生...

↓昔の色彩が鮮やかに感じられて「ぐつときた」

『いつの間にか、時が経って行つて、今では自分の眼上の人があな位になつ
て了つたんだからねえ...もう直きだよ、僕等の過ぎ去つて了ふのも。』

↓クラシカルな語りの雰囲気「ぐつときた」



絵葉書 大光院参道 (明治時代)



絵葉書 金龍寺遠景 (明治時代)



絵葉書 大光院吉祥門 (明治時代)

令和4年12月4日(日)
13:30~14:30 (終了予定)

太田市立史跡金山城跡ガイダンス施設
〒373-0027
群馬県太田市金山町 40-30
Tel.0276-25-1067